

オランダの総選挙 -ポピュリズム政党は伸び悩む-

ポイント① 与党が第一党を維持

3月15日に行なわれたオランダ議会下院選挙では、反EU(欧州連合)、反移民、反イスラムの過激な姿勢を示すウィルダース党首率いるポピュリズム政党の自由党の議席数は伸び悩みました。

一方、与党の自由民主党は議席数を減らしたものの第一党を維持しました。ルッテ首相による中道右派の自由民主党を中心とした政権が維持される見通しとなり、市場では安心感が生じているようです。もっとも、与党第二党の労働党は議席を大幅に減らしたため、新たな連立を組む必要があり、不安定な状況が続くでしょう。

ポイント② 次の注目はフランス大統領選

オランダの総選挙後の欧州政治の関心事は、イギリスのEU離脱交渉とフランス大統領選に移りそうです。イギリスは3月中旬に正式にEU離脱通告を行なう見通しです。

フランスの大統領選挙は4月23日に第1回投票が行なわれますが、過半数を取る候補がいなければ、上位2名による決選投票が5月7日に行なわれます。第1回投票に対する世論調査ではポピュリズム政党の国民戦線のルペン党首が支持率でトップですが、中道の独立候補マクロン氏が追い上げています。両者の決選投票になればマクロン氏優位と見られていますが、情勢は流動的です。

ポイント③ ユーロ圏内の経済格差・不均衡

欧州各地でのポピュリズム勢力の台頭は、経済のグローバル化や産業構造の変化に取り残された人々の既成政治への不満を背景にしていると見られ、米国でのトランプ大統領誕生と共通する部分があるようです。

さらに、ユーロ圏では参加国間の経済パフォーマンスの格差の拡大も、不安定要因として指摘できます。ユーロ圏で経済規模最大のドイツでは、失業率が大きく低下し、経常収支が大幅黒字である一方、経済規模で第2位のフランスでは失業率は高止まり、経常収支は赤字です。経済パフォーマンスに大きな差があり、国をまたぐ財政移転は原則認められない中で、共通通貨を維持することは容易ではなく、政治情勢の不透明感と相まってユーロの行方に影を落としています。

重要
イベント

3月中? 英国、EU離脱通告
3月24日 ユーロ圏PMI(3月分)
4月3日 ユーロ圏失業率(2月分)

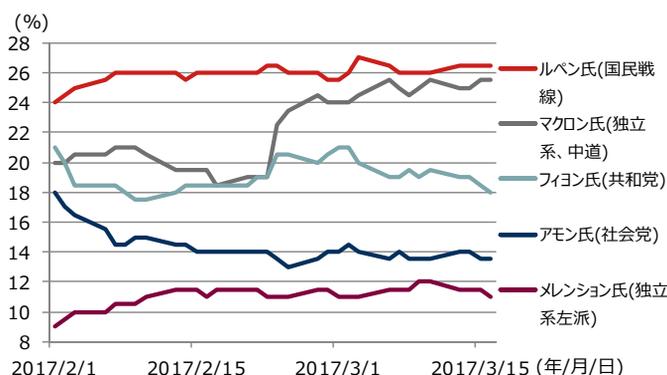
図1：オランダ下院選挙獲得議席数

	前回結果 (2012年9月)	今回結果	
自由民主党	41	33	与 党
労働党	38	9	
自由党	15	20	野 党
社会党	15	14	
キリスト教民主勢力	13	19	
民主66	12	19	
グリーンレフト	4	14	
その他	12	22	
合計	150	150	

(出所) 各種報道より野村アセットマネジメント作成

図2：フランス大統領選世論調査(第1回投票での支持)

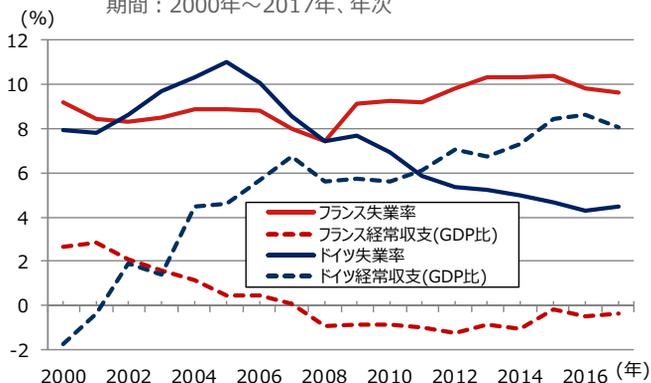
期間：2017年2月1日～3月16日



(出所) 調査会社ifopの世論調査より野村アセットマネジメント作成

図3：ドイツ、フランスの失業率、経常収支

期間：2000年～2017年、年次



(注) 2016、17年はIMFによる推計、予測

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。